

ホーム名：グループホームしおかぜ					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を額に入れGH内の見やすいところに掲げています。またスタッフ会議時に理念の実践に向けての取り組みを討議しています。	今までの9項目からなる理念を1.入居者を尊重し、意思や思いが最優先される支援 2.入居者・職員・家族と一緒に協働 3.地域社会の一員である という趣旨の基本理念に絞った。特に1.に関しては、自分の考え中心のケアにならないように会議時等に喚起している。	入居者を一住民一家族として支援し、共に生活して行くという姿勢が表れていると思う。理念を共有し、人間としてあたり前の生活が出来るよう、今後も実践に向け取り組んでいって欲しい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入船公園の盆踊りや小学校、港区民センターの行事にはなるべく参加しています。	商店街の祭りや盆踊りなどに参加し、楽しんでいる。傾聴・買い物に同伴して下さる地域のボランティアの来訪もある。保育園児との交流もあり、遊戯・歌・玉入れなどで楽しみ、折り紙リースのプレゼントのお礼に入居者手作りの編み物(マフラー)をプレゼントした。	食事の材料を買いに、毎日地元の商店街まで歩いて出かけるなど、地域の一住民として生活している。今後も、地域と事業所の繋がりを大切にしながら交流を続けていって欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての認知症学習会を開催したいと思っているが、現在は取り組めていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域から来られる委員の方々の意見を出来る限り反映できるように努めています。参加できなかった方々には郵送にて会議録を送っている。	八幡屋地域町会長・港区地域包括支援センター職員・入居者・入居者家族の参加を得、概ね2ヶ月に1度開催されている。家族の参加率も高い。昨年の外部評価結果についても、コピーを包括と家族に渡している。	毎回の町会長・包括・家族の参加は有り難い。折角の運営推進会議である。報告だけでなく、出席者からの意見・要望・提案を聞きだし、中身の濃い会議とされたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	3ヶ月に1回、年4回、地域運営推進会議を開き、区包括、町会長様、家族様と行事に携わる取り組み方の報告や連絡を行なっている。	港区包括の職員には、毎回運営推進会議に出席をいただいている。市・区の職員とは特に取り組みをしていない。	事業所の現状や取り組みを知って貰う為にも、実際に現場を見て頂く必要がある。市や区の職員にも事業所に足を運んで頂くよう、運営推進会議への出席も呼びかけられたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	たとえ入居者さん自身の行動で危険が及ぶ恐れがあっても、常に見守りや介助の配慮を忘れず、事故発生の予防を心掛け、拘束することなく過ごしていただいている。	2階ホーム入り口は施錠される事なく、1階のディールームに自由に行き来できている。言葉を遮ったりする事のないよう、職員には注意を促している。重要事項説明書で身体拘束についての規定を謳い、抑制ゼロに取り組んでいる。	身体を縛り付ける事だけが身体拘束でない事例えば言葉で縛ったり無視をしたり威圧的な態度をとる事などがなされていないか、改めて日頃の支援を振り返ってみたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加により虐待について意識し、常に注意を払い予防から行なっている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>年後見人制度を利用している入居者現在おられ、職員としても権利擁護の意識を持って日々のケアに生かせるように取り組んでいます。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>出来るだけ丁寧に何度も説明を行い、ご理解いただけるように話し合いを重ねています。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会で出た意見や、施設内の意見箱にあった意見を毎月事業所向上委員会にて討議し、改善できることには迅速に対応できるように努めています。</p>	<p>1階ディールームの入り口に、共用の「意見箱」が設置されている。運営推進会議へ家族の出席もあり、意見等伺っている。昨年より、半年に1度「家族会」の会合を開き、要望や提案など話し合う場を作っている。</p>	<p>家族的な雰囲気のあるホームであるが、言い出せない事がないよう此方から酌む努力もされたい。「家族会」では家族だけによる話し合いの場を設定し、本音が言い合える時間を与えてあげたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月スタッフ会議・月法人職員会議・年2回職員総会を行っており、その都度意見交換を行っている。</p>	<p>月1回のスタッフ会議時には、一人ひとりから意見を出してもらっている。</p>	<p>管理者は1階ディとの管理者も兼任されている為、常勤の職員2人にほぼ任せている。今後も3人の協力体制でチームワーク良く、職員の指導に当たられたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人代表者と職員代表との話し合いの場を設けるとともに、必要に応じて調整している</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修や港区地域密着型事業者ネットワークなどの外部研修を通して育成に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>大阪市GHネットワーク、港区内のGHとの連携を行って、現場職員を交えた交流や学習会を実施している。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>回数を重ね詳細に丁寧に話し合いを行っている。また声にならない要望等も拾えるように常に様子の観察を努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>回数を重ね詳細に丁寧に話し合いを行っている。また些細な事でも報告する事により自宅での生活と同じ環境を目指している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当事業所内にある他の事業所とも協力し、本人、家族も交え何度も納得するまで話し合いをしています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>暮らしを共にする者同士の関係を心掛けていますが、馴れ合いにならないよう緊張感を常に持てるよう努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族にも出来る限り訪問していただけるように日頃から声かけ行っています。共に過ごせる場の企画も提案しています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所の商店街には、朝夕と毎日2回買い物に出ており、入居者自身も馴染みのある方々と会う機会を無くさないように努めている。</p>	<p>毎日食事の材料の買い物で商店街に出掛け、挨拶も交わしている。美容院へ行ったり散歩など、人や場所との関係継続を支援している。</p>	<p>今後も引き続き関係継続の支援をお願いしたい。1階のデイに参加される入居者の引き続きの支援もお願いする。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>自室に籠りきらないようにリビングなどに来ていただき、自然に輪が出来るような環境づくりにも配慮しています。また家具の配置にも配慮し、孤立しないような空間作りをしています。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用が終了したご家族様もご連絡をしたり、定期的にGHへ気軽に来て頂いています。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向についてはいつでもお聞きできるように、また普段の何気ない会話からも拾えるように努めています。	聞いても自分からは言ってくれない状態になってきているが、職員には常に気をつけ、把握する努力をするように指導している。スタッフ会議では、意識して支援に当たるよう喚起している。	返答が無いから聞いても無駄と諦めずに、表情や言葉の端々からも推察するよう、職員も意識して支援に当たられたい。又、情報は職員間でも共有されたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人・家族から日々情報を得られるように日誌など記録・会議にてスタッフ間で統一に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが自由に過ごしていただけるように、意向を尊重しスタッフ間の申し送りも詳細にしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員・関係者と話し合い、それぞれ意見やアイデアを出し、より良い介護計画が作成できるように努めています。	短期3ヶ月・長期6ヶ月で見直しをしている。先月より各入居者毎に担当を決め、一人ひとりをよく見ることで介護計画に盛り込む事が出来、作成に活かされるようになった。	入居者と職員がいつも間近にいられる時間が多い事から、入居者各々の性格や様子も知り得ている。引き続き本人・家族・医師・看護師・職員が希望やアイデアを出し合ってより良い介護計画を作成されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が記録の記入を行っている、申し送りノートなどでも情報の共有が行えるようにしている。また勤務交代時には引継ぎを必ず行なうようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同施設内のデイサービスにも参加したり、他の事業所とも常に連携を図って柔軟な支援が行える環境づくりをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や行事などのボランティアさん、消防士による防災避難訓練など協力を仰ぎながら支援しています。防災訓練では地域の人も参加して頂きたいと思っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医師が2週間に一度定期的に往診行っており、かかりつけ医として機能して適切な医療の提供も行っている。	事業所の主体が港区医療生協で、第2・4火曜日に定期的往診がある。又、毎週水曜日は、昼から夕方にかけて訪問看護師による念入りな看護チェックがなされ、家族も安心している。	入居者全員のかかりつけ医が法人の医師であり、定期的な往診と訪問看護で体制が整っている。職員は入居者の体調変化を見逃さず、気になった事はすぐに連絡するなど、入居者の医療支援を今後お願いする。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと契約行つて、毎週健康チェックを依頼しており、入居者の日々の状態をしっかり把握していただいています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は病院関係者と連絡を取り、現在の状況の把握、必要事項においての情報交換を行っており早期退院に向けた協働を行っています。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時から終末期の際の対応など家族と相談しています。かかりつけ医、訪問看護とも密に連携をとっており情報方針の共有に努めている。</p>	<p>ホームを自宅として終末期を安心して過ごしていただく事は可能である。重要事項説明書に看取りに関する方針を記載している。過去にはホーム内で看取りを行なった経験もある。看取りに関する同意書はまだ出来ていない。本部管理部に申請中である。</p>	<p>過去に看取りを経験している。終の棲家として安心して過ごせるよう方針を立ててくれている事は、入居者にとって安心な事である。今後のその時の為にも、前回を思い起こし、職員の心のゆれやあり方などあらゆるケアについて話し合っておかれると良いと思う。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>グループホーム会議の際に事故発生時の対応について確認したり、電話の側に緊急連絡先やスタッフ連絡網の掲示をしている。また年に2回防災訓練の際に通報訓練も実施している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>グループホーム会議の際に事故発生時の対応について確認したり、電話の側に緊急連絡先やスタッフ連絡網の掲示をしている。また、ご近所に地域理事があり、緊急時の応援をお願いしている。</p>	<p>年2回の消火訓練及び避難訓練を実施し、昨年7月には消防の立会の下訓練を行なった。消防と区役所から「毎月のスタッフ会議時に防火・消防訓練の定例化を！」との指示があった。災害時の役割を火事と地震に分け、担当を決めている。緊急避難場所は八幡屋小学校であり、家族及び関係者へは通知済みである。</p>	<p>もしもの災害に備えて少しでも手順良く避難出来るよう、普段から意識しておく事は大切である。訓練の定例化を実践されたい。ホーム内での備蓄品の確保も必要である。又、地震や津波対策も市(区)や包括と相談しておかれたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者の方々は常に人生の大先輩であることを念頭において言葉使いや声かけの方法を配慮。記録も本人・家族が閲覧できるようにしている。</p>	<p>職員には、特に声かけや言葉使いに注意を促している。慣れが出て、反省すべき言葉使いをしている時もある。トイレ介助に於いては、特にプライバシーに配慮している。</p>	<p>管理者が言われるように、入居者の方々は人生の大先輩であることを念頭に置けば、自ずから言葉使いや態度に尊敬の念が表れるはずである。今後も引き続き尊敬の念を抱きながらの支援をお願いする。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>したいこと、食べたいもの、好きなもの色々と伺いながら一人ひとりに合わせた支援が行えるように努めている。知り得た情報の共有にも配慮。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな一日の流れはあるが、できる限りゆったりと一人ひとりのペースで過ごしていただくように努めています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>スタッフと一緒に買いに行っています。嬉しそうにご自身の趣味のものを選んで購入していただいています。理美容も本人の行きつけの場所へご家族様の協力も受けながら行っていただいています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニュー決めから何を食べたいかお聞きし、一緒に買い物へ行き調理・盛り付け、配膳など一緒に行っています。調理中も様々に会話しながら楽しく食事づくりが行えています。</p>	<p>メニューを入居者と決め、午前・午後それぞれ散歩を兼ねて商店街まで買い出しに行く。味付け以外は入居者と共に行っている。栄養のチェックは1階ディの配食サービスの栄養士に見てもらい、おほめつきを頂いている。</p>	<p>入居者と協力しながら食事の準備や片付けを行なっている。今後も、持てる力を発揮して頂き、楽しい食事作り・食事タイムとなる様に支援を続けていってほしい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>日々変わる個人の体調に合わせて、食事作りの際に調整している。水分摂取もこまめに声掛けを実施。申し送りにより、その事柄を他スタッフへと伝達する。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の後のうがいの促しと、就寝時は必ず義歯の洗浄うがいを実施。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表にて、各入居者の排泄パターンを把握して、早めにトイレ誘導を行い、できるだけ失敗のないように努めています。</p>	<p>入居者の殆どがリハビリパンツの使用である。自分の足でトイレに行く事を基本にし、早めのトイレ誘導を行なっている。「おむつに頼らない・おむつにしない」心構えで支援にあたっている。</p>	<p>トイレでの排泄は、誰もが願うところである。おむつに頼る事なくいつまでもトイレでの排泄が出来るよう、支援を続けていってほしい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>上記のチェック表にて、便の状況を確認し、野菜や水分の摂取を心掛け、往診や訪問看護の際にも相談し便秘の解消に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴時間・日などは決めておらずいつでも入りたい時に入れるようにしています。(夜間のスタッフが少ない時以外で)</p>	<p>毎日の入浴を基本としている。昼食・休憩の後夕方までが、ほぼ決まった入浴時間である。湯換えは1人づつを基本としているが、時間の無い時はオーバーフローでカバーしている。</p>	<p>時には風呂に入りたがらない入居者もおられる事と思うが、今行なっているように言葉掛けに工夫をしたり職員を代えてみたりで支援を続けられたい。入浴で清潔な身体を維持されたい。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファや食堂、自室など思い思いの場所で休息されています。出来る限り本人の行動にあわせています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを作成し、スタッフがいづでも確認できる場所に保管。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援を行っている	散歩・買い物・調理・花など好きなもの好きな事は皆さんそれぞれ。その人の嗜好・意欲に合わせて支援を行っている。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	昼・夕食の買だしや個人の必要物品の買物・散歩・洗濯干しなど、様々な場面で外出の機会と捉えて支援を行っている。	雨の日以外は、買い物を兼ねて午前・午後と毎日商店街まで出かけている。昨年企画のリハビリ温泉施設への一泊旅行は実施出来なかった。	毎日外出する事で外気に触れ、皮膚も鍛えられ、抵抗力もつき、延いては健康な身体を作る事になる。今後も方針を変えず、毎日の外出支援に取り組んでいって欲しい。温泉施設への一泊旅行は、是非実現されたい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身でお財布を管理している人が1名。その他は事業所での預かりだが、その人の買いたいものかう際などは支払い・受け取りなど状況に合わせて行っていただけるように支援。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙などは今現在はやり取りされている方がおられない。電話に関しては使いやすい場所に設置して要望があれば電話していただけるようにしています。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ちょっとした家具の配置変更により、ゆっくりテレビを見たり、みんなで談笑できる空間作りが行なえた。	リビングのテレビとソファの配置換えを行なった。車椅子でも楽に入る事が出来、皆で集まって楽しめるスペースが出来た。食後は全員でゆっくり寛いでおられる様子が伺えた。	配置換えをした事によりリビングがすっきりとし、テレビも一緒に観られるようになった。見やすい時計や大きな日めくりもあり、家庭的な温かさが感じられる。明るく落ち着いたスペースで好感がもてるリビングである。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングで過ごせたり、ソファなどでゆっくり過ごしたり、お好きなところに思い思いにいていただけるようにしている。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋のもの全てご自身の私物を持ってきていただいています。仏壇を持ってこられている方もいます。	仏壇やたんすなど、入居者各々部室に持ち込み、それぞれ個性のある居室作りが出来ている。ベッドの他、布団利用の入居者もおられる。	思い思いの部屋作りが出来ている。各部屋避難用扉で続いているが、扉の前後に通行の妨げになる様な物が置かれていないか、スムーズな避難が出来るか、今一度確認を図りたい。地震時に怪我をする事が無い様、各部屋の見直しもおかれない。布団やシーツなど衛生にも気を配られたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時、手すり・いすなどを利用しながらなるべく一人で歩ける環境作りをしています。出来ること・出来ないことの把握を各スタッフが気付き、本人の出来ることまで手を出してしまわないように注意しています。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○
66	職員は生き活きと働けている	○
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○